

**研究者総覧：涌井 隆 (WAKUI, Takashi)**

氏名	涌井隆 (WAKUI, Takashi)
職名	教授
所属講座	日本語文化専攻日本語文化学講座
学位 (専攻分野)	Ph.D. (East Asian Languages and Cultures) Columbia University
メールアドレス	<a href="mailto:wakui@cc.nagoya-u.ac.jp">wakui@cc.nagoya-u.ac.jp</a>
個人のホームページ	<a href="http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~wakui/">http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~wakui/</a>
研究分野	日本語の近現代詩
	具体詩
	世界のアニメーション
現在の研究テーマ	星と近現代文学、具体詩
所属学会	日本文学協会
主要著書・論文	「パーシヴァル・ローウェルは日本人と火星をどう見たか」(『論集：異文化としての日本』、2009)
	「日本近現代詩と雅語美文」(『言語文化研究叢書』、2008)
	「藤村と星」(『言語文化論集』第29巻、2008)
	「内村鑑三と星の観望」(『言語文化論集』第28巻、2007)
	「星のある風景：夏目漱石の『坑夫』、「夢十夜」、「思い出すことなど」(『言語文化論集』第27巻、2006)
自己紹介文	<p>私の専門は比較文学で、とくに詩です。日本語、英語、フランス語など自分が読める言語で詩を読んで解釈することが論文の主目的です。最近は、新国誠一の具体詩の作品をいくつか解釈しました(2011年3月時点で未刊行)。難解な詩は解釈されずに放置されていることがほとんどです。解釈せずに論文を書くのは責任放棄ではないのかと思いますが、そのような論文が多いことは確かです。他人の詩を解釈するだけでなく、私自身下手ではありますが、詩を書きます。数篇完成すれば、名古屋の朗読会で披露します。趣味がアマチュア天文なので、日本近現代文学と星や天文学の接点について興味を持ち調べています(ホームページに撮像した画像を置いているので見に行ってください)。これは気の長いプロジェクトで小出しに少しずつ書いています。90年代後半ごろから広島ア</p> <div data-bbox="1029 1261 1332 1653" data-label="Image"> </div> <p align="center">ムンクの『叫び』</p>

	<p>ニメーションフェスティバルに行き始め、アニメーションについても書くようになりました。2011年から始まる英語によるプログラムではアニメーションについて講義する予定です。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>この文章を書いている現在、人類史上未曾有の原発事故が進行中です。最悪の事態が回避できるよう祈るしかありません。これは、日本の問題だけではなく、人類全体の問題です。人類全体で乗り越えて行かねばならない問題です。世界は一般に考えられている以上に深く結びついています。日本を研究のテーマにしても、世界全体を見据えないと日本を正しく理解できません。グローバリゼーションは何も最近始まったことではなく、人類誕生と同時に始まっています。民族、宗教、文化の差異をことさら強調する排他的な思考形式に陥らないよう心しなければなりません。</p> <p>現在進行中の原発事故で明らかになっているのは、何が正確な情報であるのか極めて判読しにくいということです。しかし、このことも今に始まったことではなく、ましてやインターネットの出現によって始まったことでもなく、人類の歴史と共にあります。世の権力者が征服の手段として嘘をつく、また組織がみずからを守るために嘘をつくというのはよくある事態です。嘘の中から真実を探しださねばなりません。授業では、そのような、現代を生きていく上で最も重要なテーマについて深く考えたいと思います。私の活動の詳細については、ホームページを読みに行ってください。最新の情報は常に私の個人のホームページにあります。</p> <div data-bbox="1002 443 1358 790" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1054 817 1299 846">りょうけん座の二銀河</p>